第二講『玉勝間』

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

世々の物知り人、また今の世に学問する人などもみな、住みかは、里とほくしづかなる山林（やまはやし）を、住みよく好ましくするさまにのみ言ふ（ア）なるを、われはいか（イ）なるにか、さらにさはおぼえず、ただ人しげくにぎはしき所の、好ましくて、さる世ばなれたる所などは、さびしくて、心もしをるるやうにぞおぼゆる。さるは①まれまれにものして、一夜旅寝したるなどこそは、めづらかなるかたに、をかしくもおぼゆれ、さる所に、つねに住ままほしくは、さらにおぼえずなむ。

人の心はさまざまなれば、人うとくしづかならむ所を、住みよくおぼえむもさることにて、まことにさ思はむ人も、世には多かりぬべけれど、また例の作りごとの、（a）漢ぶりの人まねに、さ言ひなして、なべての世の人の心と、ことなるさまに、もてなすたぐひも、中にはありぬべくや。Aかく疑はるるも、おのが俗情（さとびごころ）のならひにこそ。

のりなが、享和の初めの年、京にのぼりてありしほど、宿れりし所は、四条の大路の南づらの、烏丸のひむがし（ウ）なる所にぞありけるを、家はやや奥まりてなむありければ、物のけはひうとかりけれど、朝のほど夕暮れなどには、門に

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

立ち出でつつ見るに、道も広くはればれしきに、ゆきかふ人しげく、いとにぎはしきは、②ゐなかに住みなれたる目うつし、こよなくて、目さむるここちなむしける。京といへど、なべてはかくてしもあらぬを、この四条の大路などは、ことにゝぎはしくなむありける。天の下三ところの大都（おおさと）の中に、江戸大坂は、③あまり人のゆきき多く、らうがはしきを、よきほどのにぎはひにて、よろづの社々寺々など、(b)古へのよしある多く、思ひなし尊く、すべて物きよらに、よろづの事みやびたるなど、B天の下に、住ままほしき里は、さはいへど京をおきて、外にはなかりけり。

（『玉勝間』による）

問一　傍線部①〜③を現代語訳せよ。

①＝

②＝

③＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問二　二重傍線部（ア）～（ウ）について、文法的な説明として合致するものを、次の選択肢の中から一つずつ選べ。

a　動詞の一部
b　断定の助動詞
c　形容動詞の一部
d　存在の助動詞
e　伝聞推定の助動詞

（ア）＝
（イ）＝
（ウ）＝

問三　傍線部（a）・（b）の読みを答えよ。

（a）＝
（b）＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問四　波線部Ａ「かく疑はるる」とは、何についてどのように疑っているのか、詳しく説明せよ。

問五　波線部Ｂのように「のりなが」が述べる理由を、簡潔に説明せよ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問六　『玉勝間』の作者である「のりなが」の姓名を漢字で記せ。また、次の選択肢の中から、「のりなが」の著作でない**もの**を一つ選べ。

a　古事記伝
b　万葉代匠記
c　古今集遠鏡
d　うひ山ぶみ
e　源氏物語玉の小櫛

姓名＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二講　復習問題

①「若君、姫君とぞ聞こゆなる。」の傍線部の助動詞の意味として正しいものを、次の中から選べ。

ア　現在の推量　イ　過去の推量　ウ　適当　エ　可能
オ　断定　カ　伝聞推定　キ　完了　ク　当然

②「中ならん物はさながら取れ」の傍線部と同じ意味で用いられているものとして、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　心に思ふことを見るもの聞くものにつけて言ひ出だせるなり。（『古今和歌集』）
イ　この西なる家はなに人の住むぞ、問ひ聞きたりや。（『源氏物語』）
ウ　三条の宮に、親族（しぞく）なる人の衛門の命婦とてさぶらひけるたづねて文やりたれば、（『更級日記』）
エ　それを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつくしうてゐたり。（『竹取物語』）
オ　都へと思ふをものの悲しきは帰らぬ人のあればなりけり（『土佐日記』）
カ　物思へば雲居に見ゆる雁（かりがね）の耳に近くも聞こゆなるかな（『和泉式部集』）

③「らうがはしく」の語句の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　騒々しく　イ　うら悲しく　ウ　不安げで
エ　生きた心地もなく　オ　もがき苦しんで

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

④　本居宣長の著でないものを次の中から選べ。

ア　『古事記伝』
イ　『紫文要領』
ウ　『うひ山ぶみ』
エ　『万葉代匠記』
オ　『源氏物語玉の小櫛』

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二講　模範解答

問一　①　たまに人里離れた所〔＝山奥〕に行って
②　田舎に住み慣れた自分の目からは、目移りするほど都会の様子は、この上なく素晴らしくて
③　あまりにも人の往来が多く、騒々しいが

問二　（ア）e　（イ）c　（ウ）d

問三　（a）からぶり　（b）いにしへ〔え〕

問四　世間の知識人や学者などがみな、人里離れた閑静な場所を住みやすく好ましいと言っていることについて、中国の人達の思想をまねして〔＝中国の故事に倣って〕言っているだけで、世間一般の人とは違う考え方であると人から思われるように発言しているだけの人もきっといるはずであると疑っている。

問五　宣長は、人が多くて賑やかな場所に住むことを好んでいるが、江戸や大坂は人が多過ぎて騒々しいが、京都は適度な賑わいで、昔からの由緒ある神社やお寺が多くて尊く、全てが美しく優雅であるから。

問六　本居宣長　／　b

〔現代語訳〕

代々の知識人や、また今の世で学問をする人なども皆、住居は、人里遠く閑静な山林を、住みやすく好ましくするようにのみ言っているそうだが、私はどういうわけか、まったくそうは思わず、ただ人が多く賑やかな場所が、好ましくて、そのような世間から離れている所などは、寂しくて、心も元気がなくなるように思われる。とはいえたまに人里離れた所に行って、一夜旅寝をしたなどということは、珍しい気がして、興趣あることに思われるが、そのような所に、常に住みたいとは、まったく思われない。人の心は様々であるので、人の姿が少なく閑静な所を、住みやすく思うとしたらそれももっともなことで、本当にそう思う人も、世間に多いにちがいないが、また例によって作為的な、唐風を装う文人趣味の真似から、そのように言いつくろって、一般の世の人の心と、異なる様子に、振舞うたぐいの人も、中にはいるにちがいないのではないか。このようについ疑ってしま

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

うのも、私の卑しい心の習性なのであろう。

私、宣長は、亨和の元年、京都に上っていた頃、宿っていた所は、四条の大路の南側の、烏丸の東方にある所であったが、家はやや奥まってあったので、物の気配はひっそりしていたが、朝方や夕暮れ時などには、門前に出てはあたりを見ると、道も広く晴れ晴れとした感じで、行ったり来たりする人も多く、とても賑やかなのは、田舎に住み慣れた私の目からは目移りするほど、（都の様子は）この上なく素晴らしくて、目が醒める心地がした。京といっても、全てがこのようではないだろうが、この四条の大路などは、特に賑やかなものであった。天下の三大都市の中でも、江戸と大坂は、あまりにも人の往来が多く、騒々しいが、（京は）適度の賑わいぶりで、多くの寺社など、昔からの由緒あるものが多く、尊く思われて、万事が美しく整い、全てのことが優雅であることなど、天下に、（私が）住みたいと思う所は、何といっても京を置いて、外にはないのであるよ。

〔重要単語〕

○れい【例】…①**先例**。　②**習慣**。　③普通。　④**いつものこと**。
○なべて【並べて】…①**総じて**。　②平凡。　③一面に。
○こよなし…①**はなはだしく違う**。　②とてもすぐれている。　③とても劣っている。
○ことに【異に・殊に】…①**とりわけ**。　②その上に。
○らうがはし【乱がはし】…①**乱雑である**。　②**騒がしい**。　③乱暴だ。
○よろづ【万】…①万。　②**万事**。
○よし【由】…①**由緒**。　②**手段**。　③**理由**。　④趣。　⑤事柄。　～**とのこと**。　⑥**縁**。　⑦様子。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第二講　解答解説

〔解説〕

①「なり」の上が「聞こゆ」。「聞こゆ」はヤ行下二段活用の**終止形**なので、**伝聞推定**の「なり」。よって、正解はカ。

②「なり」の上が「**体言**」なので、**断定**か**存在**。設問文は「中**にある**物」なので、**存在**の「なり」。選択肢の中で、「なり」の上が「**場所・方角**」になっているのは、イ「西」。よって、正解はイ。

③「らうがはし」は重要単語で、「乱雑である・騒々しい・乱暴だ」の意味。よって、正解はア。

④『万葉代匠記』は契沖の著。よって、正解はエ。

〔解答〕

①　カ　②　イ　③　ア　④　エ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。